

令和 7 年 3 月 2 7 日
竹 原 商 工 会 議 所

【追加質問事項】

・人口減少っていうこの問題は、簡単どうこうはならないが消滅可能性自治体としてNo.1に指名されている。市内に存在する企業や事情をみて取り組んでいく必要がある。

・将来的な構想として、大崎上島から竹原市への架橋計画があるが、地域活性化に繋がるので検討してみてもどうか。

・今大崎上島町で行っている電源開発さんと、中国電力の大崎クールジェンで新しいこれからのエネルギーの提供をしていく。非常に期待が持てる施設ができ、水素発電で新たなエネルギーを提供するブルーミッション 2025 への取り組み等竹原市としてはどう考えているのか。

→人口減少に対する取組については、先程説明させていただいたとおりです。

次に、架橋構想についてですが、中部島架橋構想のことではないかと思います。この構想は、呉のとびしま海道から竹原市までの架橋構想で、広域観光など地域活性化の市町連携という中で、現在もこの架橋構想の要望活動に参加させていただいているということでございますので、ご理解をお願いしたいです。また、大崎クールジェンでございますが、中国電力 J パワー、また経済産業省の関係機関NEDO等がCO₂回収後のリサイクル実証をされているところと承知しております。J パワーのブルーミッション2050については、色々な取組をしていくということで、水素発電・アンモニア発電等色々研究されているということでございますけれども、当市におきましても、新1号機については、そのまま運転という方向性を出されているかと思っておりますけれども、3号機についてはまだ検討中でございますので、この点については、注視しながら取組をさせていただきたいと考えています。

・「町並み保存地区周辺地区舗装改修事業」で、公共下水道事業と合わせての改修は良いと思う。しかしながら「竹原らしい」とあるが、現在の石畳は竹原の歴史や伝統と関係があるとは思えない。また雨の日によく滑る。それでも今の石畳を維持する計画なのか？

また現状、石畳が建物の土台より高い所にあり、雨水が流れて土台を痛めている。当初の工事が杜撰であったからだが、その点は改修しないのか？

次に「市民の景観意識の醸成」とあるが、改修計画について当の住民に何のヒアリングもない。住民の意向は反映しないのか？

→町並み保存地区および周辺地区の石畳舗装におきましては、整備後相当の年数が経過し、老朽化に伴う安全性・維持管理コストの増大が課題となっています。

「雨天時に滑りやすい」「車両走行時にガタつく」といったご指摘は地元自治会からもご意見をいただいていることから、こうした課題にも的確に対応するため、令和7年度に

景観舗装の整備方針を策定いたします。

今後も、地域の皆様をはじめ、様々な関係者のご意見も伺いながら、竹原らしい景観資産を次世代へ確実に継承できるよう取り組んでまいりますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

・観光客増加は結構だが、それに伴う観光公害対策は何か計画があるのか？

2015年に131万人もの観光客が押し寄せ、そのときの教訓はあるはず。

→令和5年3月に策定した「竹原市観光振興計画」において、本市の観光の課題として、観光開発の拡大・観光客の増大（オーバーツーリズム）への対応、観光客の満足度と住民の暮らしを両立する観光のあり方の検討、推進が必要であると整理しております。

同計画において、「基本施策2 誘客の基盤づくり」の重点施策として、「受入環境の整備」に取り組むこととしており、特に大久野島においては、海路等の交通手段が限られており、オーバーツーリズムを防ぐための取組を関係者と連携し検討することとしております。

・旧イズミ跡地について、今回の説明では再開発が決定のような報告をしていましたが再開発のメリットはどこにあるのでしょうか。

→民間活用が困難となり残置される見通しであった旧ゆめタウン建物を解体することにより市民の安全確保を図るとともに、これらの敷地を事業用地に取り込むことで、市民ニーズを踏まえたより良い複合施設整備に加え、複合施設と相乗効果を生み出すことができる民間機能を誘導することで企業誘致や雇用の場の創出も目指した一体的なプロジェクトとして進めております。

・複合施設が民間指導型になると伺いましたが、それなら竹原市の税金は使われないですね？(図書館・市民館だけでもよいのでは)

→市民が様々な用途で利用する施設であり、民間の創意工夫が反映しやすいことから、官民連携手法（PPP/PFI）により発注することとしており、公共資金を活用した民間主導での施設整備・管理運営（DBO方式）を想定しております。

民間主体で設計・施工・管理運営まで一体的に行うため、公共積算によらず民間の実勢価格での整備となり、管理運営面でも効率化が図られ、サービス水準の維持とコスト縮の減が可能となります。

事業の財源としては、公共施設部分の整備には国の補助金等とともに竹原市の税金を充当することとなり、民間機能部分は民間事業者の独立採算にて事業を実施します。

・もちろん収支の計画（案）は事前に公表されますよね。

→現状でも事業費見込みを公表しておりますが、今後の予算措置のタイミングや事業者選定のタイミングではより具体的な内容を公表することとなります。

・観光事業に 1 億 5 千万の予算をつけておりますが、いままで削減された住民サービスは戻さないのですか。「元気と笑顔が織りなす暮らし誇らし、竹原市」とうたっておりますが、安心安全の観点から防犯カメラの設置・街頭の増設などはしないのですか。職員の人件費はあがっていますね。

→本市財政状況は、人口減少などによる市税や地方交付税などの歳入の減少、少子高齢化等による社会保障関連経費の増加など、今後も厳しい財政運営が続くことが想定され则认为ており、新たな住民ニーズや行政課題に的確に対応していくためには、事業の選択と集中が必要であり、人口減少や住民ニーズの移り変わり等により、利用が減少するなどの課題がある事業等について、事業の縮小・廃止や新たな事業への転換を図るなどの見直しを行うなど、必要となる財源の確保に努める中で、弾力的で持続可能な財政構造の確立を図り、将来にわたり必要な行政サービスを安定的に提供してまいりたいと考えております。

このような中、昨年度は竹原駅及び忠海駅に新たに防犯カメラを設置するとともに、令和 7 年度からは防犯カメラを設置する自治会等に対し、補助金を交付する制度を創設したところであり、街路灯の設置補助と合わせ、犯罪の起こりにくい安全なまちづくりに向けた施策を行って参りたいと考えております。

・竹原の婚活アプリに予算を付けておりますが、20 人での利用にこの様な予算はいかなるものでしょうか。

→総会で説明させていただいたとおりです。

・竹原市はこれから観光で食べていくのですか。

→人口減少・少子高齢化が進む中、交流人口・関係人口の拡大は地域の活力の維持・発展に不可欠です。本市には、「大久野島」、「たけはら町並み保存地区」、「瀬戸内海」など、魅力ある観光資源があります。これらの資源の磨き上げを行うとともに、新たな資源の発掘、今ある資源と新たな資源の融合を行う中で、官民一体となって持続可能な観光まちづくりに取り組み、地域活性化の柱として観光振興を進めてまいります。